

令和4年度 自己評価まとめ

保育の中での気づき

- 1、今年度は未就学児施設における園児の事故が相次ぎ、死亡事故に至る大きな事故で現場に衝撃を与えた。そして、保育の中で虐待行為をした保育士についての報道が相次いだ。

これは今、立ち止まる時。保育者の資質を問われている。そこを支え育てる現場のふりかえりが必要。環境の見直し、職員態勢や業務内容はこのままで良いのか疑問。

それぞれが意見を出し合える環境が欲しい。一人一人の子どもと向き合える保育がしたい。子どもと夢中になって遊びたい。丁寧に個別支援をしたい。事務業務の時間が欲しい。そして、心に余裕が欲しい。

→一人で抱え込まない。困ったら言うを習慣化する。業務改善は仲間の声から始まり、それは子どもを大事にする保育につながる。

事務業務の精査と削減。大人の日課の見直しを図る。休憩時間の保障。ノーコンタクトタイムでの事務業務時間の保障。労働時間を守る。公休、有給休暇の活用。

- 2、1、2歳児、また幼児についても嘔みつき、引っ掻きなどのけがが続くとどうして良いのかわからなくなる。咄嗟のことで止められない。あまりにも続くと保護者にどう伝えて良いのか迷う。

→掛札先生のけががチェックシートに継続的に日々のけがを記入し省察。原因の究明と対処方法、改善内容を明確にし防げるけがを増やしていく。

保護者対応については、起こったこと的事实を伝え、現場も見てもらいながら具体的に伝える。そして、当事者同士の気持ちを伝え合う時間を大事にしている旨とその内容も伝える。

今後の課題と見通し

- 1、フィードバックすることを身に着けていく
- 2、日々の保育へのねらいを持って子どもと向き合う
- 3、保育のねらいについては、同じ保育室の大人同士共有する
- 4、事務業務については、時間枠を取り（同時間をとったら良いかわからない場合はリーダーに相談）そして、宣言→集中→報告
- 5、「できない、困った、わからない」ことは、声に出す
- 6、人のせいにしない→どうしたらできるかを考える思考へ